

令和8(2026)年度

名古屋大学大学院 法学研究科実務法曹養成専攻

筆記試験問題

刑事法系

2025年10月25日(土) 16:15~17:15

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 配布物は、この問題冊子(表紙を除いて1枚)、解答用紙(表紙を除いて5枚)、下書き用紙1枚である。
3. 試験開始の指示があったら、はじめにこの問題冊子を確認しなさい。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあったら、ただちに監督者に申し出なさい。
4. 解答にかかる前に、解答用紙の所定の箇所すべてに受験番号を記入しなさい。解答用紙に氏名を記入してはいけない。
5. 解答は、解答用紙の所定の欄に横書きで、1ますに1字ずつ記入しなさい(句読点もそれぞれ1字に数える)。
6. 解答用紙を綴ってある針をはずしてはいけない。
7. 試験終了後、指示があるまで退室してはいけない。
8. 解答用紙を持ち帰ってはいけない。その他は持ち帰ってもよい。

法律科目試験 「刑事法系」 問題

I 次の事項について、400字以内で説明しなさい。

- ・三角詐欺

II 次の事例における甲と乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く。）。

甲（男）は、1年前にA（女）と結婚した。Aは再婚で、前夫との間に儲けた子X（再婚当時5歳）がおり、3人で新生活を始めたが、Xは甲に懐かず、常に反抗的であったため、甲はXを邪魔者扱いするようになった。

或る日甲は、Aに頼まれてXを散歩に連れ出し、公園に行った。甲はその中にある大きな池のほとりの長椅子に座って本を読み、Xは近くの水際で遊んでいた。甲が読書に夢中になっている間に、Xは池の中に入り、岸から7、8メートル進んだところで深みにはまって溺れ始めた。周囲に人影はなかった。これに気付いた甲は、池に飛び込んでXを助けようと考えた。そこに、甲の友人乙が通り掛かった。Xの救助に向かおうとする甲を見た乙は、甲がXを忌み嫌っているのを知っていたので、甲のために良かれと思い、Xを放置して溺れるに任せるよう勧めた。甲は、乙の言う通りにすればXから解放されることに思い至って、Xを見殺しにする決心をし、飛び込むのを止めた。間もなくXは溺死した。なお、甲も乙も、もし甲が助けに行けばXを確実に救命できると思っていたが、事後的に判明したところによると、溺れているXを甲が発見した時点ですぐに水から引き上げて適切な処置を施していたとしても手遅れであった。